

たのしい広公園

—よく考えて よいことをしよう—

1 学年 第2学年〔前期〕

2 主題名 よいことをすすんで〔1－(3)〕

3 ねらい

公園であぶない遊び方をしている友達を注意しようとする花子の行動や気持ちを考えることを通して、よいことを進んで行っていこうとする心情を育てる。

4 資料名 「たのしい広公園」

5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 公園でどんな遊びをしているか話し合う。 ○ 公園でよくする遊びは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具で遊ぶ。 ・ おにごっこ ・ かくれんぼ 	○ どんな遊びをしているか簡単にふれ、公園での遊びを思い出させる。
展 開	2 資料「たのしい広公園」を読んで、話し合う。 ○ 「つばきのすべりだい」で遊んでいるとき、花子はどんな気持ちだったでしょう。 ○ 友達がすべりだいでいけない遊び方をしているのを見て、花子はどんなことを思ったでしょう。 ◎ 花子はどのように思い切って友達に注意したのでしょうか。 3 自分の生活を振り返り話し合う。 ○ よいことを自分からしたとき、どんな気持ちでしたか。その時の体験を発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもしろいな。 ・ 友達と遊ぶのは楽しい。 ・ いろんな遊びがしたいなあ。 ・ あぶないことをしてはいけない。 ・ いけないことだから、やめるように言おうかな。 ・ 注意したら遊んでくれないかもしれない。 ・ いけないことはちゃんと言おうと思ったから。 ・ だまっていたら、またあぶないことをしてしまうから。 ・ あぶないことをしないほうが楽しく遊ぶことができるから。 ・ トイレのスリッパをそろえた。きれいになってすっきりした。 ・ 掲示係の仕事を手伝った。みんなですると仕事が早く終わるし、楽しかった。 ・ 気分が悪くなった友達を保健室に連れて行った。ありがとうと言われてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と楽しく遊ぶ花子の気持ちに共感させる。 ○ あぶないことをしていると気付いたが、すぐに注意することができない花子の気持ちを考えさせる。 ○ 友達に思い切って注意した花子の気持ちの変容に気付かせ、その理由についてしっかり話し合わせる。 ○ よく考えて、よいことをしたときの心地よさを出させ、よいことをしようという意欲を高めさせる。
終 末	4 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからも進んでよいことをしよう。 	○ よいことと悪いことをよく考えて、行動した経験を紹介する。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、低学年の内容項目〔1－（3）〕「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」に基づき設定した。

この時期の児童は学校生活や友達関係も深まりが出て、行動範囲も広がり、活動も活発になってくる。そのような中で、よいことと悪いことの区別はできても、行動に移せない場合がある。例えば、いけない遊び方をしてしまったり、自分の思っていることが言えなかったりすることがある。そこで、日常よく経験するようなことを取り上げて、よいことをしなくてはいけないが、思い切って行動できない心情や正しいことをした時の気持ちよさ等について考えさせることを通して、「思い切ってやってよかった。」「よいことができてうれしい。」等の気持ちをもてるようにしたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 関連する価値項目

公園での遊び方について、友達に注意するという内容であるので、公德心4－（1）、信頼友情2－（3）と関連するが、話し合いの方向がこれらの内容項目に大きくそれないようにしたい。

イ 身近な経験から

公園で友達と遊んだ経験は多くの児童がもっている。友達や自分が危ない遊び方をした経験もあると思う。また、正しいと思っても、なかなか思い切って行動に移せないこともある。そのような日頃の経験をもとにした意見をしっかりと出させたい。資料では広地区の児童にとって身近な広公園やそこに新しく作られた遊具を取り上げた。低学年の児童にとっては自分が遊んだことのある場所が取り上げられていることで、より身近なこととして考えることができるであろう。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

公園で遊ぶことの楽しさや遊び方を思い起こさせ、資料への興味付けを行いたい。また、誰にとっても公園は楽しい場所であることをおさえたい。

イ 展開の工夫

中心発問を、主人公が思い切って友達に注意する場面に設定した。主人公の気持ちを考えさせることで、注意する理由にも触れるようにしたい。友達に嫌がられるかもしれない思いながらも、正しいと考えたことをしようとする主人公の気持ちに共感させたい。

ウ 振返りの工夫

よいことであっても、状況によっては思い切って行動することができないことがある。日記やアンケートでどうしようかと思いつつも、よいことが進んでできたという経験を把握しておき、振り返りで活用したい。また、やってよかったという気持ちも発表させ、進んでよいことをしていこうという心情を育てたい。

エ 終末の工夫

日常の何気ないことでも、善悪の判断がつかなくなったり、よいことでも進んで行動できなかったりすることもこの時期の児童にはありがちである。そこで、例えば、近所の人へのあいさつ、授業での発表など身近なことを取り上げて話すことで、よいと思ったことは進んでしようという意欲をもたせたい。

また、授業後もこうした行動に目を向けるようにし、朝の会などで取り上げたり、教師が積極的にほめたりするようにしたい。